

社会的貢献と地域への経済効果をもたらすリサイクル事業の取り組み

小西英玄（奈良市手をつなぐ親の会（奈良市））



ネットワークを創る

本日は、お招き頂きありがとうございます。奈良市の取り組みをお話できる機会を頂き感謝申し上げます。奈良市におけるネットワークを通じた就労支援や生活支援の取り組みをお話させていただきます。

実は昨日、先ほど矢野さんがお話された「富雄プロジェクト（廃屋再生のプロジェクト）」にいつも一緒に奈良の福祉を創ってくださる奈良県立高等養護学校進路指導部の高田先生と2人で行って来ました。昼食を頂きましたが、スローフードで非常に雰囲気のある所です。決して男2人で行くところで

はありません。素敵な女性と一度行ってみたいところです。食事の内容も湯葉のグラタンや赤飯、地鶏を使った昼食が1,000円とお手ごろ。一度、皆さんも行かれてはいかがでしょうか？

さて、私は今まで奈良市の福祉を養護学校の先生、施設・作業所のスタッフ、行政の方達と創ってきました。そして私には障害をもつ娘がいます。多くの障害の子どもをもつ家族と共に「奈良市手をつなぐ親の会」の活動を通じて福祉を創ってきました。

作業所を10箇所。グル・プホ・ムを19箇所。入所・通所施設建設にも関わってきました。そして、授産品販売のネットワーク「福祉フェア」の運営。余暇活動支援の「春咲きコンサート」の開催。障害者就業・生活支援センター「コンパス」の設立など障害者への関わりを創ってきました。点から線そして面への展開を考へ実行できたと思っていました。しかし、それは福祉関係者の間だけで障害者の人たちが生活する地域を巻き込んだ支援ネットワークになっていない事に気付きました。

障害者も働ける共生型社会へ

障害者もある年齢になれば、働くべきだと思います。私の娘は、現在30歳です。彼

女は1ヶ月に50万の収入を得ています。ただし皆さんからの税金を使わせてもらって。障害基礎年金で83,000円、福祉作業所で100,000円、グル-プホ-ムで120,000円、娘は酸素を使って生活していますのでその医療費として150,000円、その他バス無料乗車券・特別手当等合わせると合計500,000円ほどの税金を使わせてもらっています。しかし、直接彼女(娘)が使える金額は障害基礎年金の83,000円だけ。あとは娘を支援してくださる事への費用として使われます。現在、娘は日中活動を福祉作業所で、夜間はグル-プホ-ムで生活しています。83,000円で衣・食・住を賄っています。そして福祉作業所での工賃は月5,000円です。今、両親が健在だから親の援助で生活ができていますが、近い将来おこるべき現実を無視することはできません。いくら重度の障害をもっていてもその人に合った仕事を提供する事により、働き、遊び、そして生まれ育った地域で生活することは素晴らしい事だと思います。

福祉事業は面白い一面を感じます。健常者は障害者の生活の支援者。障害者は健常者の生活費の支援者。この両方で循環型社会を形成しています。これも一つの共生型社会だと思います。

先ほどの話に戻りますが、どうも福祉は福祉関係者だけの問題、社会全体の問題として展開する社会保障論にはなかなかないもどかしさを感じます。高齢者福祉はいずれ当事者になりますが、障害者福祉は0.004%の確立。当然自分の問題にはなりきれない背景があるのがわかります。

環境問題に取り組む「奈良市手をつなぐ親の会」

私たち、奈良市手をつなぐ親の会は、平成2年より取り組んでいるリサイクル事業をつうじて環境問題に取り組んでいます。水質汚染や空気汚染の環境だけではなく、人が住み、人が働き、人が集まる。そんな環境を創る。言い換えれば、広い意味での環境創りに関わることで、障害者問題を社会全体の問題として考えていただくような仕掛けをしました。障害者が住みやすい環境、障害者が働きやすい環境、障害者が学びやすい環境、障害者が楽しみやすい環境。総ての人にやさしい環境を市民の方と一緒に創りあげる事により、福祉が社会全体の問題になるように願っています。

私たちと、リサイクルとの関わりは、当時まだバブル期だった平成2年頃。世の中総消費時代。それを警鐘するかのようリサイクルの必要性が叫ばれ始めました。奈良市においても、環境精美工場でゴミを焼却する際に段ボールを取り除く事により焼却炉の傷みを減らすことができるため、先ず段ボールを取り除き、それを再生古紙としてリサイクルするという私たちの事業が始まりました。当時は「リサイクルセンター」のイメージではなく「ゴミ工場」の時代でした。わが子が3Kの現場で働く事への抵抗感もありました。行政の中でも、障害者にこの様な作業をさせる事が本当に善いのだろうかという、人権問題的な検討もなされました。当時、働いて頂く障害者を探しに施設や作業所も回りました。作業所から1名、離職者から2名を集めてのスタ-トでした。

私たちのこの事業に対する考え方は、当

初「障害者の働く場」だったのが、「障害者がリサイクルをしている場」「リサイクルを通じ奈良の街を綺麗にしている場」「リサイクルを通じ奈良の環境を創る場」と変化していることを感じています。そして、いまは「障害者がリサイクルをつうじて社会貢献している場」に変わってきました。

障害者働き、得た賃金と障害基礎年金で「衣」「食」「住」「楽」「学」を賄う。そして、リサイクル事業で「奈良市の環境保全について社会貢献している」。素晴らしい事だと思いませんか。

国際観光都市奈良に年間何十万人の観光客が訪れます。その観光客をお迎えする近鉄奈良駅や、JR奈良駅前の清掃、観光客が訪れるユネスコ文化遺産に登録された唐招提寺、薬師寺、朱雀門、春日大社のトイレの清掃を行い、気持ちよく奈良の風情を満喫

して頂こうと365日清掃をしています。

今お話した以外に、奈良市の家庭から出る資源ごみ(空き缶・ペットボトル・古紙・古着等)の分別・選別作業も行っています。この資源ごみも以前であれば焼却してしまいダイオキシン等の人体への有害物質が発生していました。

彼らは『障害』の2文字と共に生き、そして働き・住み・楽しみ・多くの人的支援と資金的支援に支えられてながら生きています。しかし、奈良を訪れた人、奈良市民の方に、『環境』の2文字で社会貢献をしているこれも一つの共生型社会だと思います。

事業がもたらす地域の経済効果

彼らは社会貢献だけではなく、奈良市にも大きな経済効果を上げています。もし、この事業が無ければ、現在リサイクル事業所で働いている54名の障害者の方はおそらく福祉施設への通所施設での生活をされると仮定しますと、施設の1人単価を15万円と計算して15万×54名×12ヶ月で9,720万の公金(税金)を使うこととなります。このリサイクル事業は奈良市より約90,000万で業務委託を受けています。仕事をして生活費となる委託料を考えると約2億の経済効果を得ている事になります。

又、委託事業を行うだけでは無く、回収した古紙を販売して250万、古着を販売して6,000万、放置自転車を再生販売して150万、合計約1,000万の販売収益を上げています。これも、そのままの状態であれば、ゴミと共に煙と化してしまうのをリサイクルすることで違う意味の経済効果を生んでいると思います。



汚れたから掃除、ゴミが落ちているから掃除。使った後の空き缶、ペットボトルの分別、選別など、使用後処理からの環境保全だけではなく、環境を汚さない物創りも創めようと福祉と環境をリンクさせた株式会社「ウィル ジャパン」を設立し障害者雇用と環境創りを創めました。鉱物系によるエネルギー - 資源ではなく、体・環境に優しい植物系エネルギー - (バイオマスエネルギー -)の普及に努める為、家庭で使用済みの植物油の回収と精製をはじめました。

又、それ以外に観光都市奈良漆黒の夜を数十万本のろうそくの灯りで飾ろうとする『なら燈火会』の使用済みろうそくの再生事業や、産業廃棄物業者4社が行う企業型資源ごみの分別に参入し数名の障害者の就労につなげたり、先ほどの『富雄プロジェクト』に障害者1名をジョブコーチと共に就職活動を展開しています。

『環境づくり』にこだわり続ける奈良市の福祉でありたい

知的に、身体に、精神に障害をもつ方の24時間・365日に関わっている中で感じたことは、福祉だけのネットワークだけでは決して完結型は求められないということです。障害をもつ人を中心に行政・支援者・保護者がトライアングルを創る。支援者のネットワークも福祉系だけではなく、私たちは奈良の地域性を生かし観光系・環境系・市民系などとネットを組み、共にワ - ク出来ることを目指しています。

そして最終目標は、『福祉で街づくり』だと思います。障害をもつ人たちが「住みやすい環境」・「働きやすい環境」・「楽しみやすい

環境」・「学びやすい環境」が整えれば総ての市民がOKだと思います。

そのためにも『環境づくり』にこだわり続けています。それが奈良市の福祉かなと思います。